

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	1070201155		
法人名	株式会社あじさい		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	群馬県高崎市石原町2348-1		
自己評価作成日	令和8年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和8年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の思いを、大切するという観点から、起床時間、食事の時間など、自由に過ごされることを前提に、ご自分で決めて頂いています。ベランダから景色を眺められたり、庭を歩いたり、町内清掃に参加されたり、お世話をされるのではなく、ご自分の意思で、生活をしているという思いを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者様の思いに寄り添う介護を目指します」を理念を掲げ、利用者に向き合い耳かきやマニキュア等の提供の場面づくりなども活かして、信頼関係の構築に努めている。それぞれの思いが日々変化することは自然の成り行きであると理解し、その日の思いを職員が受け入れている。共同生活の一員と見なし、利用者にはここにあなたがいないと困ると伝え、利用者には配膳・下膳、食器洗い、居室掃除等の役割を担っていただき、利用者が皆平等に自由に生活できることを大切にしている。職員は、急がない、怒らない、機嫌よく接する、謝るを徹底し、利用者の気持ちの安定を図りながら、穏やかに過ごせるよう支援している。理学療法士を採用してリハビリを提供し、何時でも主治医の往診が受けられる体制と訪問看護との連携から、医療面の安心も確保している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアプラン、年間目標を検討するときに、理念を活用しています。職員会議等で具体的に話し合っています。	理念に掲げている「利用者様の思いによりそう介護を目指します。」にむけて、日々変化する思いを普段から十分にコミュニケーションをとることで理解に努め、利用者との信頼関係の構築に努めている。職員会議やケア会議において、利用者のニーズや接し方、職員の反省すべき点について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板にあじさい便りや、行事のお誘いなどを入れて頂いている。月1回の町内清掃に参加している。	自治会に加入し、回覧板を通して催事等の情報を入手して参加している。散歩中に挨拶を交わしたり、野菜や果物の差し入れがあったりと、地域住民と交流がある。また、中学生の職場体験や介護学生の実習を受け入れたり、中学校の生徒と教員が来訪してクリスマス会の準備を手伝ってくれたり、交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談を受け付けている旨のステッカーを、玄関に張り付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	しばらく運営推進会議を行っていないので、今年は開催して参りたい。	運営推進会議を開催していないので、令和8年6月からの再開を予定している。毎回、家族の出席は多いが、今後は、区長や民生委員にも出席を依頼していく予定である。	運営推進会議を再開するにあたり、広く意見が聴取できるような体制づくりに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の受け入れをしているが、社会福祉課と連携を密にしている。	介護保険の更新申請や空室情報等で介護保険課と、生活保護受給者の対応で社会福祉課と、連絡をとっている。事故報告すべき事象の確認や、老朽化した備品の購入における補助の問い合わせなど、日頃から連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関以外の施錠はしていない。身体拘束委員会を作って、定期的に身体拘束をしないための学習をしている。	安全と、本人の思い(行動の自由)、管理者は常に両視点に立ち、その人の思いや自由を尊重することから、転倒や怪我のリスクがあることを家族へ理解してもらうことに苦慮している。車椅子使用時の上体の崩れやずり落ちの防止として、クッションを挟んで身体を安定させる対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三か月に一度、身体拘束禁止委員会を開催し、学習している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議等で情報を共有して、活用できるよう、話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日に書面を一緒に確認して、納得して頂いている。日頃より、ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や日頃より、要望を伺い、職員全体で共有している。玄関に意見箱を設置している。	玄関に設置した意見箱の意見を活かし、利用者の状態を主治医から直接説明が聞ける機会を作っている。その他、面会時や来訪時にも要望を聞き、散歩の回数を増やすことに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回開催して、代表者と管理者で、職員にさまざまな提案をもらい、実行している。	月に1回の職員会議や、個人的にも、職員の意見を聴取している。そうしたなか、物品の購入や利用者の食事へのとりみ剤使用の提案などがあり、意見をもとに代表者と管理者で良い方向に向けて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給の値上げ、労働時間にたいする希望や有給休暇の取り方など要望を聞いて実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の要望も聞きながら、ネット研修や、あじさいネットなどを活用して学習の機会を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の施設から週1回の訪問看護を受け、情報交換をしている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の家庭訪問の際に、コミュニケーションを図り、不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時にゆとり時間を取って意見を伺い、安心して頂ける様情報を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見守り強化して、職員全体で話し合い、必要なケアを実施しながら、模索している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物を畳んだり、庭を掃いたり、廊下を吹いたり、助け合って生活していこうという気持ちを大切にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時は、他の入所者と話したり、職員も一緒にコーヒーを飲んだり、みんなで楽しく過ごしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に親戚の方や友人に来訪して頂いている。家に行ってみたいという時は、一緒にいたりしています。ご家族の方と誕生日を一緒にお祝いしたり、お墓参りに行かれたりしています。	アセスメントや家族からの情報から、これまで行って来たことを入居後も続けられるように支援しており、面会や外出は制限せず、家族と外食や外出を楽しんだり、法事に参加したりしている。また、現役時代の同僚や友人が定期的に来て、一緒に将棋を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の人格を大切に、相性の良い悪いを心得ながら、自由な雰囲気大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族が来訪して下さり、差し入れを頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族に、その方の思いがどこにあるのかを聞いたり、ご本人と対話を深めて、その方の思いを大切にケアを考えています。	思いは日々変化するものとし、その日のその人の思いを大切に、意向をそのまま受け入れて支援している。管理者は、職員が日に日に変わる利用者の思いを深く考えることが自身の成長に繋がると考え、利用者に感謝して接するなかで、一人ひとりの思いを把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話を深め、その方の価値観を大切にしたいケアについて、職員間で話し合っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言語力、運動力、咀嚼の様子など、情報を共有して、尊厳を大切に、なるべくご本人の力を発揮できるようなケアを心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、訪問看護師、ご家族の意見を聞いて、職員で共有し、入浴の仕方、食事の内容、楽しみなど、介護計画について、話し合っています。	日々のコミュニケーションを通して、その人の課題や希望などを把握し、家族の意見を取り入れて支援の内容や方法について話し合っている。管理者はケア会議で聴取した職員の意見を記録し、ケアマネジャーと相談して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何があったか、その結果がどうであったか、という記録を目指している。ケアプランに沿った記録を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の買い物、外出したい時に一緒に出掛ける事を目指している。一人ひとりの自由を尊重した生活を送れるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の方と定期的に訓練を行っている。地域の清掃、万灯会など、地域行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	つき2かいの主治医の往診がある。訪問看護は週1回あり、歯科の往診もある。	これまでのかかりつけ医を継続して受診するか、ホームの協力医を主治医とするかを、入居の際に選択している。月2回協力医の訪問診療があり、異変時にはいつでも往診で対応している。週1回訪問看護を導入して健康チェックを行い、協力医との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に、爪切り、傷手当、痰吸引などをしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連携して、訪問看護と往診で治療出来るか相談をして、ご家族と情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と、管理者とご家族で、どのように終末を迎えるのが最良なのかを話し合い、職員と情報共有をしている。	家族にとっても関心事である重度化した際の過ごし方についてを、日常の話し合いから、本人にとって、どこでどう過ごす方法が良いのかを話し合い、解決できるように支援している。自宅を選択した場合は、主治医の往診で対応している。ホームを希望した場合は、訪問看護を利用して穏やかに過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議でマニュアルを利用して勉強している。AEDの訓練や心肺蘇生について学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を、いろいろな災害を想定して、実施している。	年2回、避難訓練を行っている。ホームは高台にあり、天災や山火事等に依る土砂崩れを最も危惧し、災害対応マニュアルを作成して、状況毎に避難場所を検討しており、同法人が運営する他の地域にある施設に避難することも選択肢となっている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の個性を尊重し、生活パターンを認識し、自由に生活出来るように支援している。	利用者には、ここにあなたがいないと困ると伝えており、共同生活者として、居室の掃除や洗濯物の片づけなどできることを自分で行うことで、自信や誇りにつながり生活に張りがでるよう支援している。人は平等であるべきであり、誰かが我慢することなく皆が自由に暮らせるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択出来る場面を作るように努力している。意見を出しやすいよう会話に工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気持ちや気分を理解し、一律に行動することがないようにしている。どのようにしたいのかを探っている。例えば、野菜作り、塗り絵など		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の時に、着替える服と一緒に選んでいる。マニキュア、化粧など美容室が来訪した時は、施術前に要望を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に天ぷらを揚げる。おいなりを作る。ドーナツを作る。洗い物をしていただく。	食べたい時に好きな物を食べる事が生活の満足度を高めることに繋がると、それぞれが希望する時間に、希望する簡単な物(お粥、みそ汁など)を作って提供している。納豆、卵、梅干し、ヨーグルトなどを常に用意して、希望に応じて提供している。行事食、誕生日食などを手づくりし、利用者がスープを作ってくれる機会も作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お好きな飲み物を召し上げてもらっている。野菜、豆腐、卵、果物、牛乳など工夫して食べていただいて居る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	いればの消毒、ガーゼを使ったり、ケアスポンジを利用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後に声掛けをして、トイレ誘導を心掛けています。排尿、排便のサインを見落とさないよう、見守りをしている。	おむつにしないことが元気でいることの条件と考え、「何とか自分で立ち上がりたい」という気持ちを上手く引き出して、トイレで排泄できるように支援している。トイレで自分で拭く、立ち上がる等の一連の動作をするなかで、筋力の維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に気を付けて、野菜、果物、サツマイモなど、バランスのとれた食事に気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみになるように、香りや温かさや気を使い、丁寧な対応に努めている。どの時間があるのかを探っている。	週2回の入浴を基本としているが、いつでも自由な時間に入浴できるように対応している。夕方の入浴、また、一番風呂、同性介助等の希望にも対応している。浴室では職員との会話も弾み、何でも話せる関係づくりが活かされている。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等で季節を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りのパターンを理解し、職員で情報共有して、スムーズに眠りにつけるような、声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容について情報をノートで共有している。変更があった場合、変化があった場所と情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日会や花火大会、お花見などの行事を全員で準備したり、庭の草木に水を上げたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出されたり、職員と買い物に出かけています。ご本人の希望をお聞きして、ご家族と相談しながら実現しています。	それぞれの希望に沿って、買い物や花見等の機会を設けている。外出先で、ところてんや焼きまんじゅうを食べ楽しむこともある。家族との外出も自由に行われている。日常的にテラスでお茶会をしたり、敷地の畑仕事をしたり、散歩に出掛けたり、外気に触れる機会を大切にしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替をして、ご家族に請求しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使って頂いています。年賀状など書きたい方には、支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるもの、クリスマスツリー、お正月は南天の生け花、干支の飾り物など、工夫しています。	食堂兼居間は、季節感のある飾り物や行事の写真が展示されている。居間から外に続くテラスと大きな掃き出し窓で明るく、窓を開放すれば風通しが良い。利用者がテーブルを囲んで会話をしたり、テレビを見たり、ソファでくつろいだり、自由に過ごせる空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い人同士が楽しめるような、場所作りをしている。例えば、将棋、カラオケ、かるたなど		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お好きなもの、時計、花の絵、運動器具などを置いて、楽しんでおられます。	自分の居室が分かるように、ドアの横に本人の写真を貼っている。共同生活を営んでいるという考えで、居室の掃除は利用者が行えるようにしている。持参物に制限は無く、テーブルと椅子を設置して居室で食事することも自由としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体的に見通しが良いように、風通しが良いように、家具などを配置している。安心できる様な動線を作っている。		